

令和6年3月14日（木）

13：30～

### 令和5年度史跡井野長割遺跡整備検討委員会次第

1. あいさつ
2. 報告事項（資料1）  
委員委嘱と委員紹介
3. 史跡の公開について（資料2・3）
4. 史跡指定20周年記念行事について（資料4）
5. その他  
宮内井戸作遺跡出土品の県指定について（資料5）

## 史跡井野長割遺跡整備検討委員会委員名簿(令和5年度～令和7年度)

令和6年3月1日現在

氏名	所属	備考
山田 昌久	東京都立大学 大学教育センター	学識経験者 再任(委員長)
山田 康弘	東京都立大学	学識経験者 再任(副委員長)
田代 順孝		学識経験者 再任
高橋 龍三郎	早稲田大学	学識経験者 再任
阿部 昭典	千葉大学	学識経験者 再任
一場 郁夫		市民公募委員
蕨 由美		市民公募委員 再任

公開等スケジュール

	エリア	R7	R8	R9	R10	R11	R12	備考
公開1期	M1南	→						
公開2期(前期)	M1-M3間				→			
公開2期(後期)	M3-M4間						→	
公開3期	谷底							
遺跡案内標識		↔						国道296号線
標柱移設		↔						北標柱を井野っ子山へ
説明看板		① ↔		② ↔		③ ↔		①遺跡全体・縄文の道 ②M5 ③広場・斜面
その他		縄文の道表示						
周年事業		20					25	

井野長割公園

国道296号線

出入口  
南標柱

史跡指定範圍

第3期

第1期

道解説

第2期

斜面解説

広場解説

M5解説

M5  
体育館

既存解説板

北標柱

井野っ子山

標高

11

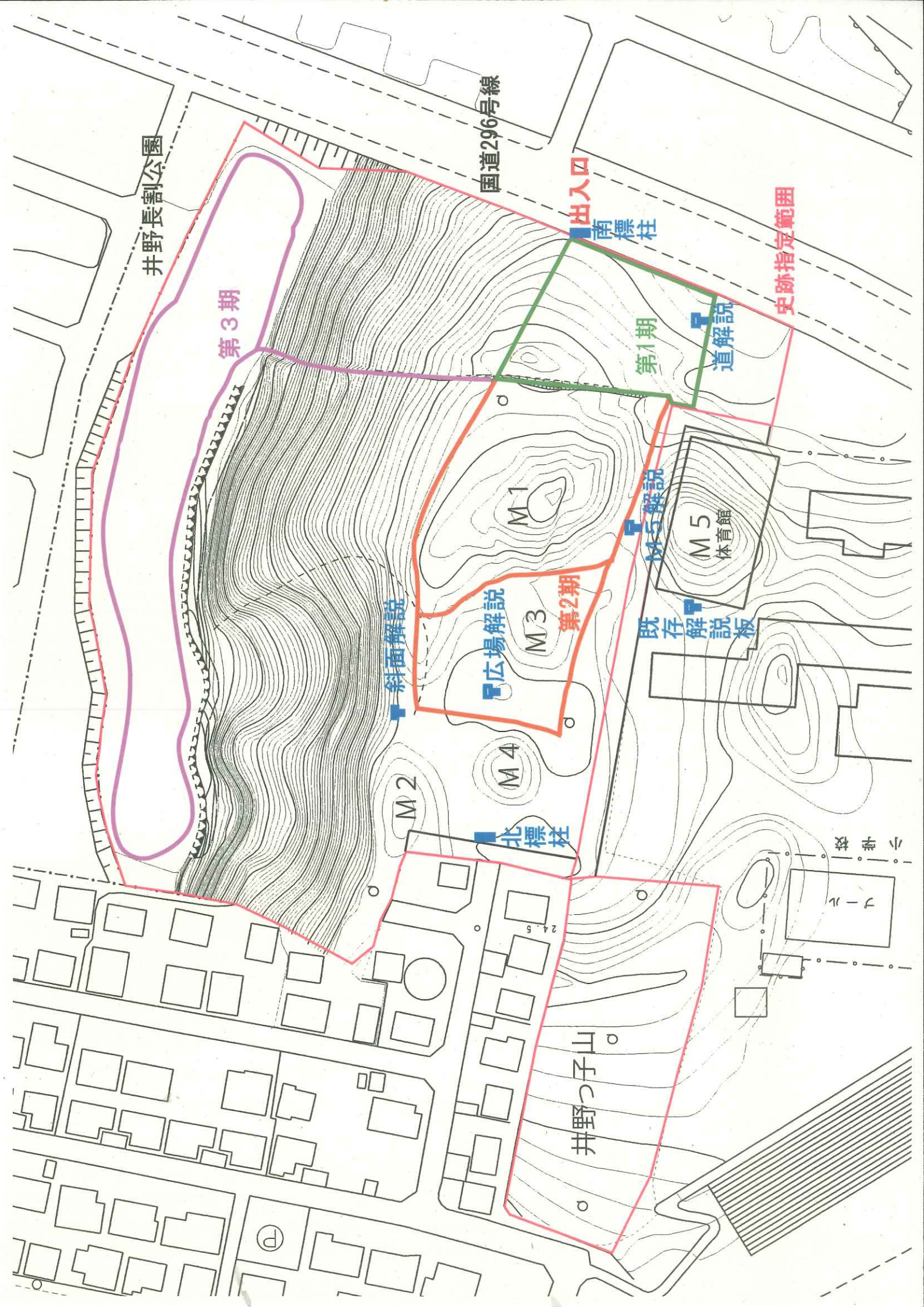
24.5

M2

M4

M3

M1



1. 過去の記念行事

○指定年度

- ・シンポジウム『井野長割遺跡を考える～環状盛土をめぐって～』

平成16（2004）年9月26日（日）

○指定10周年

- ・シンポジウム『縄文時代のムラと盛土』

平成27（2015）年2月7日（土）

○指定15周年

- ・展示「ぜーんぶ佐倉の縄文展 ―地面の下の造形美―」（佐倉市立美術館）

令和2（2020）年10月27日（火）～12月20日（日）

- ・講演会『注口土器が語る 井野長割遺跡の交流』（佐倉市立中央公民館）

令和3（2021）年1月16日（土）

○指定20周年事務局案

- ・パネル展

夢さくら館での遺跡紹介パネル展示

- ・講演会

（仮）「印旛地域の縄文後・晩期社会を考える」 講師：高橋龍三郎氏（早稲田大学名誉教授）

- ・ワークショップ（子供参加）

- ・縄文服製作

## 答申文化財の概要

### 新たに指定する文化財

有形文化財（考古資料）

名 称：<sup>みやうちいどさくいせきしゅつどひん</sup>宮内井戸作遺跡出土品

員 数：202 点（第 1 表）

所 有 者：佐倉市

所 在 地：<sup>さくらしみやこうじ</sup>佐倉市宮小路町 27-1（宮小路倉庫）

指定基準：（一）土器、石器、木器、骨角牙器、玉その他縄文時代及びそれ以前の遺物で学術的価値の特に高いもの

### 概 要

宮内井戸作遺跡は、<sup>かしまがわ</sup>鹿島川の中流域右岸に立地する、縄文時代後・晩期を中心とした大規模な集落遺跡である。平成元年から平成 14 年に行われた発掘調査により、直径 10 m を超える大型住居跡 6 軒を含む、竪穴住居跡 200 軒以上が検出されている。

本出土品は、調査により出土したものの内、宮内井戸作遺跡を特徴づける資料 202 点（土器 66 点、土製品 81 点、石製品 55 点）を抽出したものである。

土器には、深鉢、注口土器、<sup>いけいだいつき</sup>異形台付土器、<sup>つりて</sup>釣手土器等がある。深鉢、注口土器等は時期を示す資料であり、異形台付土器、釣手土器等は出土が限られる特殊土器である。これらは、房総半島、特に印旛沼周辺における、縄文時代後期前葉から晩期前半にかけて出土する遺物の様相をあらわす代表例に位置付けられる。

土製品には、<sup>どぐう</sup>土偶・土版・動物形土製品・<sup>どせいみかざり</sup>土製耳飾等がある。土偶は筒形・<sup>みみずく形</sup>みみずく形・<sup>しやこうき</sup>山形・<sup>しやこうき</sup>遮光器等、種類の豊富さが際立つ。筒形土偶は顔面表現の有無、<sup>ちゅうじつ</sup>中実・<sup>ちゅうくう</sup>中空など、形態差による時間的変遷を推測できる好例で、出土数は房総半島でも随一である。遮光器土偶は、東北地方からの搬入品と在地での模倣品があり、東北地方の集落との関係性と、その影響を享受したことが分かる重要な資料である。

石製品には、石棒・石剣・<sup>ゆうこうかるいしせいひん</sup>有孔軽石製品等がある。これらは大型住居跡からも出土をみるが、大型住居跡と同様に被熱の痕跡を残すものが認められる。有孔軽石製品は、<sup>しずくがた</sup>軽石を<sup>たんぶ</sup>雫形等に加工し、<sup>せんこう</sup>幅の狭い端部に穿孔を施したもので、本遺跡内では大型住居跡（59 号住）とその周囲で出土が<sup>うき</sup>顕著である。本来は浮子として利用されるが、製作にあたり入念な研磨整形が行われており、宝飾品としての利用も考えられる。

このように本出土品は、大型住居跡という特殊な空間と、祭祀・儀礼をつかさどる資料の関係性等を理解しうる稀有な例であり、宮内井戸作遺跡の特殊性と房総半島の縄文時代後・晩期の様相を物語る資料として、県指定文化財にふさわしいものである。

第 1 表 宮内井戸作遺跡県指定文化財候補遺物一覧

(『宮内井戸作遺跡』2009 (財)印旛郡市文化財センター より作成)

土器		土製品		石製品	
器形・種類等	点数	種類等	点数	種類等	点数
深鉢	23	土偶	43	有孔軽石製品・軽石製品	34
鉢・浅鉢	16	土製耳飾	27	石棒・石剣	12
壺	10	土版	7	石椀	1
台付深鉢・鉢	2	有孔円盤	1	垂飾	7
注口	5	動物形	1	独鈷石	1
異形台付	1	亀形	1		
人面装飾付き	3	スタンプ形	1		
釣手	3				
ミニチュア	2				
あわび形	1				
小計	66	小計	81	小計	55
合計					202



第1図 土器(深鉢、鉢、浅鉢、壺、台付深鉢・鉢、注口土器、異形台付土器、釣手土器)



第2図 遮光器土偶(左:模倣品、右:搬入品)



第3図 有孔軽石製品

(写真提供:佐倉市教育委員会)